

第1学年2組 図画工作科 学習指導案

単元名：ぼくたち みんな イラストレーター！

題材名：「みてみて おはなし」

男子 17名 女子 16名 計 33名

指導者 遠藤 康平

題材について

○ 題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作科の内容 A 表現（2）ア「感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと。」、B鑑賞（1）イ「感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。」を指導するものである。

本題材では、国語科「おはなしをつくろう」の学習で自分が書いた昔話の表紙の絵を描く活動を通して、物語から想像してどの場面を表紙にするかを考えたり、楽しいお話には明るい色を使い悲しいお話には暗い色を使うなどして自分の物語にあった色遣いを考えたりすることをねらいとしている。また、表紙の絵を描くことによって、物語がより読みたくなるものになったことに気付かせ、絵をかくことを楽しもうとする意欲・態度を高められる題材でもある。

○ 児童観

本学級の児童は、絵を描くことに対して意欲的な児童が多く、「絵をかくのは好きですか。」というアンケートに対して肯定的な回答をした児童は 90.9%である。しかし、「絵の具を使って絵をかくのは好きですか。」というアンケートに対して消極的な回答をした児童は 24.2%であり、絵の具を使って絵を描くことに対して関心が低かったり、苦手意識をもっていたりする児童がいるという課題がある。2学期の「のってみたいな いきたいな」では、虫に乗って行ってみたい場所を想像して描くことができたが、お話から想像して絵を描く学習は初めてである。また、同題材では着色に絵の具を用いたが、混色をする際に筆を丁寧に洗わずに色を取って、色が濁ってしまったり、筆先を潰しながらベタベタと塗ってしまったりする児童がおり、教師が用具の使い方を定着させきれていない児童がいる。

○ 指導観

本単元に取り組む前に、国語科「おはなしをつくろう」で児童が書いた昔話を保護者に読んでもらい、コメントをしてもらうことにより学習への意欲を高めさせる。その際、それぞれが作成した昔話に対して関心が高まるようなコメントを貰えるよう各家庭に依頼する。

課題の設定では、題名だけの表紙と絵が描かれている表紙を比較したり、絵本や物語の表紙から内容を想像してどの本が読みたくなったかを発表させたりすることで、表紙の絵の必要性に気付かせ、学習の見通しをもたせる。情報の収集では、絵本や物語の表紙の絵から、登場人物が描かれていて、その中でも主人公が大きく描かれていることや、お話の面白さが伝わるような場面が描かれていることに気付かせる。そしてどのような表紙の絵にするか理由を付けて考えさせる。整理・分析の段階では、想像したことを基に、自分の昔話の雰囲気合うように混色で色合いを工夫して、ウェットインウェット（ぼかし）の技法を用いたり、どのようなお話か伝わるように

主人公を大きく描くなどの工夫をしたりして、自分が描きたい場面を絵に表させる。まとめ・創造・表現では、昔話に表紙を付け、内容と表紙の絵を見比べながら色遣いや表し方の工夫を友達同士で見付けさせる。振り返りでは、混色で色合いを工夫することで、昔話の雰囲気合った絵を描けたことや、表紙の絵を描いたことによって、自分の昔話がより読みたくなるようなものになったことに気付かせたい。

題材の目標及び内容について

- 自分が書いた昔話から想像し、表紙の絵を描くことを楽しむことができる。
【造形への関心・意欲・態度】
- 想像力を働かせ、自分の昔話の面白さが伝わるような場面を選び、自分の昔話の雰囲気に合うような色を選ぶことができる。
【発想や構想の能力】
- 描きたい場面の様子がわかるように、クレヨンやパス、絵の具などを使いながら表し方を工夫することができる。
【創造的な技能】
- 友達の昔話を読んで感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くことができる。
【鑑賞の能力】

単元の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分が書いた昔話から想像し、表紙の絵を描くことを楽しもうとしている。	想像力を働かせ、自分の昔話の面白さが伝わるような場面を選び、自分の昔話の雰囲気に合うような色を選んでいく。	描きたい場面の様子がわかるように、クレヨンやパス、絵の具などを使いながら表し方を工夫している。	友達の昔話を読んで感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付いている。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・自分が書いた昔話をもっと読みたくなるような表紙の絵を、色や形などの表し方を工夫して描こうとしている。	・自分が書いた昔話をもっと読みたくなるような表紙の絵を描こうとしている。
【思考力】	・自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どの場面を表紙の絵に表せば、より読みたくなるか、形や色を工夫しながら考えている。	・自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どのような表紙の絵を描けば良いか考えている。
【自己理解】	・表紙の絵を描いたことによって、自分の昔話がより読みたくなるようなものになったことに気づき、表紙以外にも絵を描きたいと感じている。	・表紙の絵を描いたことによって、自分の昔話がより読みたくなるようなものになったことに気付いている。

指導と評価の計画

「課題発見・解決学習」の過程（全5時間）

次	時	学習内容	評価					
			関	発	創	鑑	評価基準	評価方法
		国語科 （1月） ○「おはなしをつくろう」の学習で、自分だけの昔話をつくる。 ・「ももたろう」「マッチ売りの少女」「さるかに合戦」「おむすびころりん」の話を基にして、人物や展開を新しく考えて、自分だけの昔話をつくる。						
一	1	課題の設定・情報の収集（1） ○国語科「おはなしをつくろう」の学習を振り返り、自分が書いた昔話の面白さを伝えるような表紙の絵を描こうという思いをもつ。 ・絵本や物語の表紙から内容を想像したり、どの本が読みたいかを考えたりすることで、表紙の絵の必要性に気付き、学習の見通しをもつ。 ○どの場面を表紙の絵にすれば、よいか考え、絵に表す。 ・絵本や物語の表紙から、面白さが伝わるような場面が表紙に描かれていることに気付く。 ・ワークシートを用い、自分が描きたい表紙の絵を描き、その絵を描いた理由を言葉で説明する。 【本時】		○			・自分が書いた昔話の面白さを伝えるような表紙の絵を描くことを楽しもうとしている。 ・自分が書いた昔話の表紙に、どのような絵を描けばよいか考えている。	行動観察 ワークシート
二	2 ・ 3 ・ 4	整理・分析（3） ○想像したことを基に、自分が描きたい場面を絵に表す。 ・主人公を大きく描いたり、主な登場人物を背景に描いたりして、どのようなお話が伝わるように工夫して表す。 ・自分が描いた昔話に合うように、絵の具を混色して色合いを工夫し、ウェットインウェット（ぼかし）で背景の色を塗る。			○		・想像力を働かせ、自分の昔話の雰囲気合うような色を選んでいく。 ・場面の様子が分かるように、表し方を工夫している。	行動観察 作品
三	5	まとめ・創造・表現（0.5） ○自分が書いた昔話に表紙を付け、友達同士で見合う。 ・友達の昔話の内容と表紙の絵を見て、形や色、表し方の工夫を見付け、発表する。 振り返り（0.5） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・混色で色合いを工夫することで、自分の書いた昔話の雰囲気に合った絵を描くことができることに気付く。 ・表紙の絵を描いたことによって、自分の昔話がより読みたいくなるようなものになったことに気付く。				○	・友達の昔話の内容と表紙の絵を見比べながら、感じたことを話したり、話を聞いたりして、形や色、表し方の面白さに気付いている。 ・色合いを工夫して表紙の絵を描くことで、自分の作った昔話の絵本がよりよくなったことに気付いている。	行動観察 ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

自分が書いた昔話の面白さが伝わるような表紙の絵を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- 自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どのように描けば面白さが伝わるか考えている。

【発想や構想の能力】

(3) 本時の学習展開（1時間目／全5時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 題名だけの表紙から表紙の必要性に気づき、学習の見通しをもつ。 2 表紙の絵の特徴を考え、本時の学習課題を知る。 めあて どのような ひょうしをかけたば よいか かんがえよう。	◇題名だけの表紙から絵のある表紙の方が、面白さが伝わることに気付かせ、学習の見通しをもたせる。 ◇「さるじぞう」の表紙を見せ、表紙には、どのような話かが分かり面白さが伝わるような場面が描かれていることを捉えさせる。	
本時のゴールの見通し A ：自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どのような表紙の絵にすればよいか、大きさや色、様子に着目して考えている。 B ：自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どのような表紙の絵にすればよいか考えている。		
3 どのような表紙の絵にするかを考える。 ○どちらの絵を表紙の絵に選びますか。 <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <input type="checkbox"/>思考の場の工夫 比較する 2枚の絵を比較し、表紙の絵に相応しい場面を考えさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・踊っている場面です。踊っている場面の方が楽しそうだからです。 ・踊っている場面の方がどんなお話か分かります。 ・歩いているだけでは面白くないです。 4 全体で発表する。	◇「したきりすずめ」の、おじいさんがスズメと踊っている場面と物語に直接関係のない山を歩く場面の絵を比較し、面白そうな場面を表紙にすればいいことに気付かせる。 ◇登場人物の大きさや色合い、背景の様子などに着目すればよいことに気付かせる。 ◇どのような表紙にするかを考え、ワークシートに言葉で書かせる。理由を付けて、なぜその場面を選んだのかを明らかにさせる。 ◆自分が書いた昔話の一番好きな場面に線を引かせ、場面を選ばせる。 ◇自分が選んだ場面とどのように表したいかを、大きさや色合い、背景の様子に着目しながら発表させる。	◎自分が書いた昔話から想像を膨らませ、どの場面を表紙の絵にすれば面白さが伝わるか考えている。【発】(行動観察・ワークシート)

★目指す児童の姿

A: わたしは、すいかたろうときゅうりたろうがきょうそうして、すいかたろうが、かちそうなばめんをかきます。りゅうは、どっちがかつのかな、とおもってほしいからです。

B: わたしは、すいかたろうときゅうりたろうが、きょうそうしているばめんをかきます。りゅうは、すいかたろうがきゅうりたろうにかつところが1ばんおもしろいから

5 次時の学習内容を考える。

◇表紙の描かれ方(構図)について知る必要があることに気付かせ、次時の予告をする。

(4) 板書計画

ぼくたち みんな イラストレーター!
「みて みて おはなし」

㊦ どのような ひょうしのえを かけばいいか かんがえよう。

したきりすずめ

山を歩いている場面

- ・なんのはなしかわからない
- ・くらい
- ・おもしろくない
- ・おじいさんが小さい
- ・おじいさんがうしろをむいている
- ・いろがうすい

もてなしの場面

- ・すずめがおどっていておもしろい
- ・すずめが出てくるはなしとわかる
- ・カラフル
- ・わくわくする
- ・にぎやか
- ・おじいさんが大きい